

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期河北町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

山形県西村山郡河北町

3 地域再生計画の区域

山形県西村山郡河北町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、昭和29年の28,053人をピークに減少しており、住民基本台帳によると令和7年には16,618人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研と言う）によると、令和32年には総人口が10,671人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は昭和60年の4,465人をピークに減少し、令和32年には868人となる。一方、老年人口（65歳以上）は昭和55年の3,246人から令和2年の6,639人にピークを迎え、その後は緩やかに減少し、令和32年には5,205人となり、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も昭和55年の14,328人をピークに減少し、令和32年には4,598人となっている。

自然動態をみると、直近7年の出生数は平成30年の103人をピークに減少し、令和6年には50人となっている。一方、死亡数は令和5年までは増加傾向がみられたが、令和6年には減少している。令和6年における出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲213人（自然減）となっている。

社会動態をみると、平成30年以降の転入者数の推移をみると、令和3（2021）年までは減少傾向が続いたが、近年は増加に転じている。一方、転出者数の推移をみると、令和元年から令和5年までは概ね一定の水準で推移していたが、令和6年は大きく減少している。平成30年以降、転出者数が転入者数を上回って推移する「社

会減」の状態が続いているが、令和6年では転入者数と転出者数の格差は縮小している。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、町民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる、また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むにあたっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標1 「かほく」の資源を活かした仕事と雇用をつくる
- ・基本目標2 「かほく」への人の流れをつくる
- ・基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる「かほく」をつくる
- ・基本目標4 安全・安心で活力ある「かほく」をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (令和12年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	町内総生産	543.5億円	600億円	基本目標1
ア	一人当たり町民所得	2,675千円	3,000千円	基本目標1
イ	若者(20歳~39歳)人口	2,515人	2,500人	基本目標2
イ	居留意向の向上 「このまま住み続けたい」 「どちらかと言えば住み 続けたい」の合計	72.6%	75.0%	基本目標2
ウ	出生数	57人	65人	基本目標3
エ	住民満足度の向上 「とても住みよい」「まあ まあ住みよい」の合計	67.6%	72.1%	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

河北町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「かほく」の資源を活かした仕事と雇用をつくる事業

イ 「かほく」への人の流れをつくる事業

ウ 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる「かほく」をつくる事業

エ 安全・安心で活力ある「かほく」をつくる事業

② 事業の内容

ア 「かほく」の資源を活かした仕事と雇用をつくる事業

「かほく」の資源を活用した仕事と雇用づくり、これからの河北町を担う人材の確保・育成、稼ぐ力の向上に努めます。

【具体的な事業】

- ・温泉とイタリア野菜等を活用した体験農園の整備
- ・関係団体との連携によるきめ細やかな就農支援
- ・町内での起業や、特産品開発のための設備導入など事業拡大への支援
- ・創業融資に対する利子補給による、創業後の接点を創出し伴走型支援等

イ 「かほく」への人の流れをつくる事業

「かほく」の魅力の発信、交流できる仕組みづくりにより関係人口・二地域居住者の創出・拡大、県内外からの移住・定住の促進に努めます。

【具体的な事業】

- ・紅花資料館や動物園などの既存観光資源の整備充実
- ・ひなの湯、ひなの宿の改修による町内外をつなぐ交流拠点の整備
- ・地域商社や第3セクター、農業団体等の協働による、多様な資源を活

用した体験コンテンツの開発

・移住定住に向けた支援体制の充実や若者の地元回帰・定着支援等

- ウ 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる「かほく」をつくる事業
若い世代の経済的安定を図るとともに、結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援や、将来の生活像を描きやすくなるような就労環境や住環境を整備するなど、安心して子どもを産み育てられる環境整備に努めます。

【具体的な事業】

・結婚相談所の運営支援や結婚新生活支援事業の継続
・不妊治療の助成や妊婦健康診査、乳児家庭全戸訪問など妊娠前から乳幼児期までの支援事業の推進
・保育料や副食費など独自の経済的支援の継続
・妊娠届出時やパパママスクール時の育児休業制度の周知 等

- エ 安全・安心で活力ある「かほく」をつくる事業

交通の利便性向上、防災力の強化、健康寿命の延伸、地域の活性化など、町民がいきいきと活躍できるまちづくりに努めます。

【具体的な事業】

・交通安全対策の推進や空き家の活用を促す適正管理の推進
・高齢者が活躍できる社会づくりや疾病・生活習慣病対策の推進
・地域公共交通の再構築による利便性向上 等※なお、詳細は第3期河北町地方創生総合戦略のとおり

- ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

- ④ 寄附の金額の目安

2,000,000千円（令和8年度～令和12年度累計）

- ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度7月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

- ⑥ 事業実施期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで

6 計画期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで